

奈良県立五條高等学校 令和2年度 学校運営協議会 全日制部会（第2回）

- 1 日 時 令和3年1月21日（木）13時30分～14時40分
- 2 場 所 奈良県立五條高等学校 小会議室
- 3 参加者 （委 員）南内浩司、宮倉靖幸、石井和弘、飯田明子、下村卓、中井基雄（校長）
（事務局）松田雅彦（全日制教頭）、東達也（全日制・定時制教頭）、
久保哲宏（事務長）、田中鈴子（総務部長）、左川正太郎（教務部長）、
吉村典久（進路指導部長）、奥村洋（生徒指導部長）、
澤一彦（広報企画部長）
- 4 内 容
 - (1) 挨拶・日程説明
 - (2) 協議
 - 五條高等学校全日制課程の本年度の取組について
総務部、教務部、広報企画部、進路指導部、生徒指導部より本年度の取り組みについての説明の後、
質疑応答。
 - ・南内委員
コロナ禍により、自宅学習の期間が長かったが、その時と現在で生徒の様子に違いはあるか。
 - ・吉村進路指導部長
マスク着用や手指の消毒、昼食時に机を動かして一緒に食べないなど、感染防止への意識は高まったように感じられる。
 - ・松田教頭
1学期は、マスクをしての挨拶に生徒は慣れない様子であったが、2学期以降は挨拶がしっかりできるようになったと感じている。
 - ・宮倉委員
普段から地域とつながる取り組みをされているのは素晴らしいこと。若いうちから社会とのつながりを持つことは大切である。生徒の作成した学校紹介の動画も素晴らしかった。地域とつながる行事の中に「わたいとつむぎ体験」があるが、どういったものか。
 - ・澤広報企画部長
生徒有志が校内で育てた綿を使って、12月に「クリスマスリースづくり」、3月に「わたいとつむぎ体験」を行っている。対象は、市内の小学生とその保護者で、毎年楽しみにしてくれている子もいる。残念ながら今年度はコロナ禍で実施できなかった。
 - ・石井委員
総務部の報告を聞き、多くの行事が中止になったとのことだが、「やらない決断」も大切で、翌年は大変だが必要なことであると感じた。生徒作成の学校紹介動画は、自発的に作成したとのことだが、そういうチャレンジをすることは素晴らしい。「失敗してもいいからやっごらん」という指導のたまものだと思う。私自身、ものづくりに関わっているが、人を育てることも大切である。今後もこのようなチャレンジを続けてほしい。
 - ・飯田委員
本年度は様々な行事が中止になったが、やめてみて初めて見えるものもあり、できないなりに工夫が生まれることもある。生徒作成の学校紹介動画を見て、こういったものに若者が「刺さる」のだとわかり、勉強になった。進路指導の報告では、福祉、リハビリ、医療関係を目指す生徒が多いと聞きうれしく思う。

5 連絡事項・挨拶

・今後の予定について（全日関係分）

- 3月3日（水） 第2回学校運営協議会開催
- 5月27日（木） 令和3年度第1回学校運営協議会

・中井校長挨拶

本日は委員の皆様にはご多忙の中お越しいただきありがとうございました。時間的な制約のある中、貴重なご意見をいただきました。私自身今年が最後の年となります。『『行きたい』『行かせたい』『来てよかった』と思える魅力ある学校づくり』をスローガンに3年間取り組んでまいりました。まだ道半ばではありますが、生徒の様子は落ち着いており、「安心して通える学校」という目標は達成していると考えております。五條高校には、卒業生として、教員として、校長として長年携わってまいりましたが、部活動が活発になったと感じています。また、3年前に広報企画部を立ち上げ、広報活動にも力を入れてまいりました。生徒たちの活躍が新聞等でも取り上げられる機会も多くなってきました。引き続き本校の魅力を地域の方に知っていただくよう取り組んでまいります。ただ、本校を取り巻く状況は厳しさを増しています。現在、五條市内から約4割の生徒が五條高校に入学していますが、少子化のため、今後は市内中学生の数が大きく減少すると考えられます。そのため、他地域からも多くの生徒に来てもらわなければなりません。「五條高校に来たら行きたい大学へ行ける」と言えるよう、進学実績も上げていかなければなりませんし、スクールバスをさらに活用する必要もあります。五條高校がさらに魅力ある学校になるよう、今後とも機会を見つけてご意見をいただけるとありがたいです。本日は本当にありがとうございました。



